

視覚の実験室

モホイ = ナジ / イン・モーション

MOHOLY-NAGY IN MOTION

2011年7月20日(水)～9月4日(日)

20世紀美術に「新しい視覚(ニュー・ヴィジョン)」をもたらしたハンガリー出身の芸術家、モホイ = ナジ・ラースロー(1895-1946)の全体像を紹介いたします。構成主義の美術家・写真家、バウハウスの教師として知られるモホイ = ナジは、20世紀前半の前衛芸術運動に参加して「光と運動による造形」という創作理念を確立し、ハンガリーからウィーンへ、そしてドイツ、オランダ、イギリスを経てアメリカへと、自らも世界の都市を移動しながら、多様な造形・教育活動を行いました。

本展は、多数の貴重な未公開作品を含む遺族所蔵のコレクションを中心に、ハンガリー時代の絵画、キネティック彫刻の代表作《ライト・スペース・モデレータ》、カメラを使わない写真技法「フォトグラム」、アメリカ時代のカラー写真など、国内外の美術館から集められた約300点の作品・資料によってモホイ = ナジの仕事を展開する日本で最初の回顧展です。その多くが国内初公開となります。表現の可能性をいまなお新鮮に、未来に向けて訴えかけるモホイ = ナジの世界を、ぜひご覧ください。



モホイ = ナジ展・関連企画、イベント情報

特別講演会「ベンヤミンとドイツ近代映画」

講師：仲正昌樹(金沢大学教授)

日時：2011年8月19日(金)午後5時～6時30分

会場：当館1F講堂

定員：100名(聴講無料・当日開始時間の1時間前より受付にて整理券を配布します。)

仲正昌樹

金沢大学法学類教授、1963年広島生まれ、東京大学総合文化研究科地域文化研究専攻博士課程修了。西洋古典、現代ドイツ思想、社会哲学、基礎法学、医療問題から、テレビ、映画、アニメ、松本清張まで幅広く真剣に議論を展開している。主な著作に、『日本とドイツ 二つの全体主義「戦前思想」を書く』(光文社、2006)、《集中講義！日本の現代思想——ポストモダンとは何だったのか》(日本放送出版協会、2006)、『ヴァルター・ベンヤミン「危機」の時代の思想家を読む』(作品社、2011)など多数。

友の会特別解説会

友の会会員の皆様をご招待し、

展覧会担当者が解説ツアーを開催いたします。

日時：8月6日(土)午後2時～3時

(午後1時50分に1Fインフォメーション前に集合)

解説者：牧口千夏(当館研究員)

申込方法

申し込み先：京都国立近代美術館 事業係

電話：075-761-4115

(月曜から金曜まで午前10時～午後5時)

※お申込の際は、お名前・会員番号をお伝えください。

国際シンポジウム「モホイ = ナジ再考

—芸術の領域を超えて—

日時：2011年7月23日(土)午後1時～5時

会場：当館1F講堂

定員：100名

後援：デザイン史学研究会

助成：公益財団法人ポーラ美術振興財団



【プログラム】

Part1: 基礎講演

基礎講演 1…「画家モホイ = ナジの誕生」

パシュート・クリスティナ(エトヴェシュ・ローランド大学名誉教授)

基礎講演 2…「モホイ = ナジと生命中心主義(バイオセントリズム)」

オリヴァー・A.I. ボーター(マニトバ大学准教授)

Part2: パネリストの発表+全体討議

報告 1…「モホイ = ナジと中欧のアヴァンギャルド芸術」

井口壽乃(埼玉大学教授)

報告 2…「モホイ = ナジと戦前の日本」

森下明彦(メディア・アーティスト/美術愛好家)

全体討議

進行・モデレーター：池田祐子(当館主任研究員)

写真ワークショップ

「コラージュ→フォトグラム→??」の実験

コラージュ画像にフォトグラムの技法を加える制作を行います。本ワークショップでは、日光を利用するサイノアタイププリント技法でフォトグラムを行います。

※天候により技法を変更する場合があります。

日時：2011年8月28日(日)午前10時～午後3時(休憩あり)

会場：当館1F講堂

定員：20名(要事前申込)

受講料：1000円

持参物：コラージュ用の雑誌1冊、はさみ、手拭いタオル

協力：徳永写真美術研究所

電話申込

京都国立近代美術館 学習支援係

TEL: 075-762-1711

(月曜から金曜まで 10時～17時)

1. モホイ = ナジ・ラースロー 1926年頃

2. 《どのようにして私は若く美しいままでいられるか?》1920年代

※すべて ©Hattula Moholy-Nagy

夢二の最高傑作《黒船屋》を見て、 ゆかりの地をめぐるツアーを企画しました。

すでにお知らせしましたように、「青木繁展」の開催を機に、友の会では3月26日と27日にかけて、本展示会の第一会場である久留米の石橋美術館を訪れ、青木繁ゆかりの地をすべてまわるツアーを企画し、ご参加の皆さまとも楽しく交流できました。

そしてこのたび、第二弾として、今秋11月から開催する「川西コレクション収蔵記念展 夢二とともに」にちなんで、竹久夢二ゆかりの地をめぐるツアーを計画しています。ツアーの目玉は何とんでも、竹久夢二伊香保記念館が所蔵する門外不出の代表作《黒船屋》の特別公開に参加できることです（毎年夢二の誕生日9月16日前後の2週間だけ、予約制で鑑賞が許されています）。さらに夢二といえば伊香保と榛名。晩年に榛名山美術研究所建設の構想を抱きながら実現はなりませんでした。榛名湖畔には、「さだめなく鳥やゆくらむ青山の…」の夢二の有名な歌碑とともに、アトリエも残されています。夢二が愛した榛名山と榛名湖の絶景も忘れられません。ツアーは9月17日（土）・18日（日）を予定していますが、詳しくは本ニュースの次号でご紹介いたします。

（友の会事務局長：山野英嗣）



《黒船屋》1919年
竹久夢二伊香保記念館蔵

必見「没後100年 青木繁展」

わが国の近代美術史上、これまで十分な内容の回顧展さえ開かれず、その紹介が待ち望まれていた画家、それが青木繁だといって過言ではありません。28歳でこの世を去り、制作された全作品でさえ、デッサンを含めてわずか440点しか確認されないために、近年は展示会を開くことすら不可能でした。しかし、関西でもまったくはじめての大規模な回顧展が、総出品点数300点という空前のスケールで開催の運びとなりました。

会期：2011年5月27日（金）～7月10日（日）

展示替え：6月20日（月）

会場：京都国立近代美術館3F企画展示会場

森村泰昌 《海の幸・戦場の頂上の旗》 特別上映中



※作品中の一部静止画像

当館4階コレクション・ギャラリーでは、現代美術家の森村泰昌氏の映像作品《海の幸・戦場の頂上の旗》を特別展示中です。開催中の青木繁展に合わせて、コレクション・ギャラリー会場に特別に展示されることとなったこの作品は、作品のタイトルにも、映像の中のモチーフにも、青木繁の《海の幸》を思い出させる印象があります。約23分間の上映時間、一日17回上映中（金曜の夜間閉館時はさらに7回追加上映）いたしております。青木展と特別展示、是非あわせてご覧ください。

（会場：当館4Fコレクション・ギャラリー）

curatorial studies 05

「ニュー・バウハウスの写真家たち」

「視覚の実験室 モホイ＝ナジ/イン・モーション」展にあわせ、1937年に渡米したモホイ＝ナジが創設した「ニュー・バウハウス」（1937-38）以降のシカゴを中心とする写真の動向に焦点を当て、モホイ＝ナジと共に教鞭を取った写真家、またはその教育を受けた写真家たちを特集します。

会期：2011年7月13日（水）～9月11日（日）

会場：当館4Fコレクション・ギャラリー

企画：林直（当館客員研究員）

森川潔（大阪芸術大学写真学科准教授）

【ギャラリートーク】

講師：森川潔

日時：2011年7月22日（金）午後6時～8時

会場：当館1F講堂及び4Fコレクション・ギャラリー

定員：30名（予約不要、聴講無料、但し常設展観覧券が必要です）

講演会「青木繁をめぐる旅－伝説とゆかりの地を訪ねて－」



5月28日（土）、石橋美術館での青木展を担当された植野健造氏（前石橋美術館学芸員）の講演会がありました。定員100名の会場も満席で賑わい、展示会開催までの作品収集のエピソード、福岡・久留米と青木にまつわる話、青木の作品に似た西洋画を見ながらの解説など、青木の歴史の色々な部分に触れながら、1時間半の楽しい講演をしていただきました。